

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会基本情報

◇第32回オリンピック競技大会（2020/東京）
開催期間：2020年7月24日（金）から8月9日（日）
競技数：33競技

◇東京2020パラリンピック競技大会
開催期間：2020年8月25日（火）から9月6日（日）
競技数：22競技

野球・ソフトボール競技開催（福島会場）関連情報

H30.3.29時点

会場	県営あづま球場 (両競技とも)	もうひとつの会場は横浜スタジアム（メイン会場）
観客数	内野席 約14,000席	外野席の扱いは未定。
観客輸送	原則としてシャトルバス (福島駅⇄球場)	シャトルバスのルートは未定。

※それぞれの競技における試合日程、試合数、出場国は現在のところ未定。

ボランティア関連情報

ボランティアの種類	大会ボランティア	都市ボランティア
運営主体	大会組織委員会	競技会場が所在する自治体
活動場所	競技会場・選手村等の大会施設	空港・主要駅・観光地、競技会場の最寄り駅 周辺及びライブサイト
活動内容	観客サービス、競技運営サポート、 メディアサポート	国内外からの旅行者に対する観光・交通案内、 競技会場までの観客の案内及びライブサイト 運営のサポート

※大会ボランティアは平成30年9月頃より募集開始。

※都市ボランティアは、県と市が平成30年度以降活動内容等の具体的な検討を行い、募集する予定。

開催前から大会に参画する機会

大会エンブレム・大会用語の使用	オリンピック・パラリンピックに関するマークや用語は、すべて知的財産保護の対象であり、自由に使用できない。ただし、会場関連自治体である福島市は、組織委員会の許可を得ることにより、一定の条件のもと使用が可能。
東京2020参画プログラムへの登録（条件あり）	・公認プログラム：市が主催・共催の事業対象、「オリンピック」等の文言、大会エンブレムが入った公認マークが使用可能。 ・応援プログラム：町内会・競技団体・学校などが主催の事業対象。「オリンピック」等の文言、応援マークが使用可能。 ※地域で行われる祭りも対象
beyond2020への登録	2020年以降を見据えて行われる文化活動を国が文化プログラムとして認証。民間事業者でも登録でき、営利活動・非営利活動に関わらず幅広い活動が対象。認証を受けた事業はロゴマークが使用可能。
カウントダウンイベントへの参加	2年前、500日前、1年前等、節目で福島市主催のイベントを実施予定。
「東京五輪音頭-2020-」の活用	1964年の東京オリンピック開催時の「東京五輪音頭」をリメイク。石川さゆり、加山雄三、竹原ピストルが歌う。町内会の盆踊り大会や運動会で利用等に貸出中。

お問い合わせ先：福島市役所政策調整部東京オリンピック・パラリンピック競技大会福島市推進室
電話 024-563-5660 FAX 024-534-4545
E-mail: oripara-s@mail.city.fukushima.fukushima.jp

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 福島市アクション&レガシープラン 2018

～感動を夢や希望に変えて、
新しい元気な福島市を未来へつなげよう！～

【概要版】

○ 本市は、東日本大震災・原発事故の被災地、県内唯一の競技開催会場地、スイス連邦とのホストタウン登録地として、東京2020大会を迎えます。このプランは、この絶好の機会を活かし、レガシー（次世代に誇れる遺産）の創出を目指すもので、5つの柱ごとに目指す「レガシーイメージ」と取り組むアクションの「方針」・「目標」・「例」で構成されています。「アクションの例」は実施未定のアイデアも含み、その他内容についても、今後の状況変化を反映して年次ごとに加除修正を行います。

福島市

本市が取り組む5本の柱

方針

基本目標（新設・強化・拡充するもの）

アクションの例

◎＝市民参加で実施

1. 野球・ソフトボール競技の開催

レガシー
■■■■■■■■■■
また来たくなる
観光都市
開催時の観客や関係者が
福島市を再訪する

野球・ソフトボール競技開催を
成功させる

- 組織委員会や県など関係する組織との連携体制
- 運営に関して市が担う業務の推進体制
- ボランティアの育成・活用体制
- 福島らしさの提案

訪れるすべての人に
福島市の魅力を感じてもらおう

- 地域資源の発掘・磨き上げ・創出・連携
- 情報発信力
- 来訪者に配慮した環境整備
- おもてなし体制

- ◎大会ボランティアの募集
- ◎都市ボランティアの募集
- ◎ボランティア講習会の開催
- ◎応援観戦への参加
- ◎市民運動への参加（あいさつ、環境美化、親切）
- ◎「おもてなし規格認証」の取得
- 関係機関との連携
- 開催時シュミレーションの実施
- 観光ルートの整備
- 外国語版パンフレット等の配置
- 公共施設トイレの洋式化
- 無料Wi-Fi環境の整備
- 歩きたばこ禁止エリアの設定
- 開始式の開催提案
- 歓迎イベントの開催提案

2. 事前合宿の誘致・受け入れ


レガシー
■■■■■■■■■■
選ばれる
合宿都市
福島市でスポーツ合宿や
大会イベントを開催する
団体が増える

選ばれる合宿環境を整備する

- 競技団体との交流基盤
- 合宿・大会受け入れ体制
- 使いやすいスポーツ施設
- スポーツを支えるまちづくり
- スポーツを応援するファン

障がい者スポーツの環境を
整備する

- 障がい者スポーツ競技団体との交流基盤
- 合宿・大会受け入れ体制
- 障がい者スポーツを支えるまちづくり
- 障がい者スポーツを応援するファン


- ◎スポーツボランティアの普及
 - ◎各種スポーツ教室の開催
 - ◎各種スポーツ体験イベントの開催
 - ◎「おもてなし規格認証」の取得
 - ◎応援観戦への参加
 - ◎市民運動への参加（あいさつ、環境美化、親切）
 - 受け入れワンストップ窓口の開設
 - サポート体制の整備
 - 合宿のまちづくり勉強会の開催
 - スポーツ施設の整備
 - 障がい者スポーツの普及
 - 障がい者スポーツ利用優先日の設定
- 

3. 文化プログラムへの参画促進

レガシー
■■■■■■■■■■
地域が輝く
文化都市
地域の文化活動が
活性化する

地域文化への誇りと愛着を
醸成し、地域を元気にする

- 地域資源の発掘・磨き上げ・創出・連携
- 地域への誇りと郷土愛
- 活発な文化的活動を促す環境整備
- 地域を担う人材

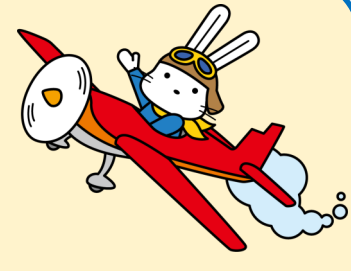
- ◎地域の伝統行事や文化祭への参加
 - ◎地域伝統行事の継承
 - ◎地域の歴史や文化財研究の実践
 - ◎地域PR動画の制作
 - ◎2020各種プログラムの認証取得
 - 地域資源の集約
 - 地域資源のまちづくりへの活用
 - 地域の祭りや文化財の学習活用
 - 地域の魅力発掘事業の開催
 - 式典等での「東北絆まつり」披露提案
- 

4. ホストタウン事業の推進

レガシー
■■■■■■■■■■
未来につながる
国際都市
海外からの
来訪者が増える

スイス関係者との
多様な交流を実践する

- スイス関係者との交流基盤
- スイスとの民間における相互理解事業
- 市民参加の国際交流事業

- ◎スイス関連情報等の収集
 - ◎スイス関連イベントの開催
 - ◎スイス文化を学ぶ
 - ◎スイス訪問
 - ◎各種国際交流事業の開催
 - 在日スイス関係者を招くツアーの開催
 - スイス大使館、政府観光局との交流
 - 相互理解を深める機会の創出
- 

5. 大会機運の醸成

レガシー
■■■■■■■■■■
オール福島で
参画都市
市民の各種参加
意欲が向上する

大会関連事業への参画により、
市民エネルギーを拡充する

- 市民参画機運
- オリンピック・パラリンピックへの理解
- 市民エネルギー（県都プライド・オール福島）
- 未来を担う子どもの夢や希望

- ◎カウントダウンイベントの開催
- ◎オリンピック・パラリンピックとの交流事業の開催
- ◎オリンピック・パラリンピック教育推進事業の開催
- ◎（仮）福島版聖火リレーの開催
- 東京2020大会専用サイトの開設
- 各種印刷物による広報
- 各種啓発物品の活用
- 大会記念モニュメント等の設置
- 「元気なふくしま、復興が進むふくしま」キャッチコピー作成
- まちづくり計画推進事業の参画プログラム登録
- 古閑裕而夫妻をテーマとした朝ドラ放映の提案
- 大会での古閑メロディー演奏の提案